

○事業所名	泉佐野市立児童発達支援センター			
○保護者評価実施期間	令和8年1月26日		～	令和8年2月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数)	19
○従業者評価実施期間	令和8年1月26日		～	令和8年2月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数)	31
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月3日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者の思いや悩み・子どもへの支援方法について、児童発達支援計画の確認の際に丁寧に聞き取りを実施するとともに、送迎時のやりとりや、クラス前のホワイトボード掲載、連絡ノート、はぐノートの会、必要に応じた個別面談など、いろいろな機会に共有できるようにしています。	家庭での様子や、登園時の様子を毎日丁寧に伝え合う中で、子どもの姿を共有し、同じ絵を描きながら支援をすすめていけるようにしています。 センターからの報告や提案だけでなく、保護者と課題や悩みを共有する中で、一緒に結論を導き出せるよう、聞き方や話し方を意識しています。	児童発達支援管理責任者やグループ担任、個別訓練担当などの「担当者」はもちろんのこと、センター内の他の職員に相談しても、同じ視点で相談を受け支援を考えていけるよう、職員間連携を密に行っていきます。
2	保育士、訓練士、発達相談員、看護師、栄養士などの専門職が配置されているため、様々な視点から子どもの成長を考えていくことができている。	専門職同士で集まり深く話していく機会や、多職種同士が集まり横の連携をとっていく機会を頻回にもつ中で、子ども理解が深まり、よりよい発達支援につなげられるよう意識しています。	業務内容の異なる多職種が集まり、会議を持つためには時間確保の工夫が必要であるため、会議の時間や回数について、職務内でより充実したものにしていけるよう、目的や内容等を年度ごとに再考していきます。
3	保護者向け子育て教室を月1回以上実施し、外部の講師も招きながら「各訓練の内容」「支援制度」「進路」「先輩保護者の話」「医療機関との連携」など、様々な視点で子育てについて学ぶ機会を設けています。	前年度の保護者アンケートを基にしながら、今、保護者が何を聞きたいかをイメージして内容を決めるようにしています。 基本的に親子保育の日に合わせて午後から実施しており、参加しやすい工夫をしています。	参加された保護者の方からはご好評をいただいていますので、今後は参加されなかった方の理由等も分析し、より多くの方に参加していただける環境にしていきたいと考えています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	元幼稚園施設であるため、施設の老朽化及び利用するこどもの状態に合った施設環境でない部分もあります。また、見た目の古さやスムーズな動線の組みにくさなどがあります。	施設の老朽化と、利用対象児童の状況に合わせて建てられた施設ではないため、その都度、利用児童に合わせた設備の工夫が必要です。	バリアフリー化はされておらず、老朽化もありますが、必要に応じた修繕や清掃、整理整頓、防虫対策を意識して行っていくこと、また、訓練士の助言による個々に合った環境整備も行い、少しでも利用者に気持ちよく施設で過ごしてもらえるように引き続き工夫していきます。
2			
3			